

10 月度 <第 15 回>

会長の時間

平成 25 年 10 月 17 日

【米山月間・職業奉仕月間】

<宇部市文化創造財団 常務理事兼事務局長 緒方伝治さん>

今月は「米山月間・職業奉仕月間」です。奥が深く、なかなか解かり難いのですが、職業奉仕についてお話をさせていただきます。

ロータリアンは、事業や専門職種の代表としてロータリークラブに入会しています。従って仲間のロータリアンに対し、それぞれの職業の代表としての責務と仕事の場でロータリー精神を実証する義務を負っています。これらが職業奉仕の基盤になっています。

「職業奉仕はよく理解できない」、「具体的に何をやるのですか」とよく聞きますが、社会奉仕は社会に対する奉仕ですが、職業奉仕は職業に対する奉仕ではありません。職業奉仕 (Vocational Service) は、職業案内、職業意識、職業教育、職業指導、職業補導という具体的なものではなく、ロータリーの専門用語です。

「職業」(Vocation) は、生計のために日常従事する仕事、務め、家業、生業で…生きる為に必要な所得・収入を得る手段であり、自分のためでもある経済行為です。

一方「奉仕」(Service) は、日本語の意味では、自分の利益ではなく他人や公共のために自分が犠牲を払うことにもなります。自己犠牲を覚悟で「世のため、人のため」に尽くすことでもあり、「愛」「仁」「慈愛」といい替えることもできます。

日本語での「職業」と「奉仕」は方向性がまったく正反対で、本来は相反する言葉です。この相反する 2 つの言葉を合成して「職業奉仕」にしたために「職業奉仕」の意味が難しく複雑になって誤解されるようになったと思われまます。ロータリーが発足して間もなく、アーサー・フレデリック・シェルドンが提唱した「**He profits most who serves best**」 「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」というロータリアン一人一人の責任として、個々のロータリアンが各自の職場で個人的な貢献を行って来ました。

但し、1989 年決議 89-45 号によって「**He profits most**」第 2 のモットーに格下げになり、2001 年決議 01-678 号で「全てのロータリー用語から性に関する表現を削除され、第 2 モットーの「**He**」が問題になり、使用禁止となりました。現在 2004 年規定審議会で「**He=彼**」が「**They (ゼイ) =人々**」に変更され第

2 モットーは「They Profit Most Who Serve Best」になっており、日本語の解釈に変更は有りません。

また、「四つのテスト」ですが、創案者はハーバート J・テラーで、倒産寸前の調理器具製造会社の再建を依頼され、正しい営業活動を行えば必ず会社が再建できると考え宗派の違う社員に「四つのテスト」を示し、5年後に借金は返済し黒字になりました。…その後、ロータリー創立 50 周年の 1954-55 年度にハーバート J・テラーが RI 会長に就任した時、社内訓であった「四つのテスト」の著作権を RI に移譲し、採用され現在に至っております。

ロータリアンは、職業人ですから、職業奉仕こそロータリアンの基本で有り、100 年以上も存続してきました。最大の要因の一つは、この「職業奉仕」であろうかと思えます。

従いまして、各ロータリークラブの例会会場には、必ず「四つのテスト」(THE FOUR-WEY TEST) を掲げ、唱和しております。

皆さん！いかがでしょうか、これを機に、各自企業におかれましても、掲載され唱和されるものよろしいのではないのでしょうか！

以上で会長の時間を終わらせて頂きます。

…本日もロータリーライフをお楽しみ下さい…